

北海道浮魚ニュース

令和元（2019）年度 4号

2019年5月24日

道総研 水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎日本海スルメイカ北上期調査結果

5月17日～22日の期間、津軽海峡周辺から秋田県沖にかけての日本海で、函館水産試験場調査船金星丸（151トン、イカ釣機5台、集魚灯20灯装備）により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・スルメイカは非常に低密度で分布していた。
- ・全調査点での平均分布密度は2001年以降で最低であった。
- ・魚体サイズのモードは13cmで昨年及び過去5年平均より小さかった。

1. 水温分布（図1）

漁獲調査点5地点の表面水温は13.4～16.2℃（昨年5地点12.2～14.6℃）、深度50mの水温は5.2～11.0℃（昨年5地点5.6～12.2℃）の範囲にありました。

スルメイカの分布の目安となる深度50mで10℃以上の水温帯は、北緯40°線を軸として沖合から沿岸に向かって扇状に広がっていましたが、調査海域の南西側では水温が7℃以下まで低くなっていました。また津軽海峡周辺は昨年よりも低水温となっていました。

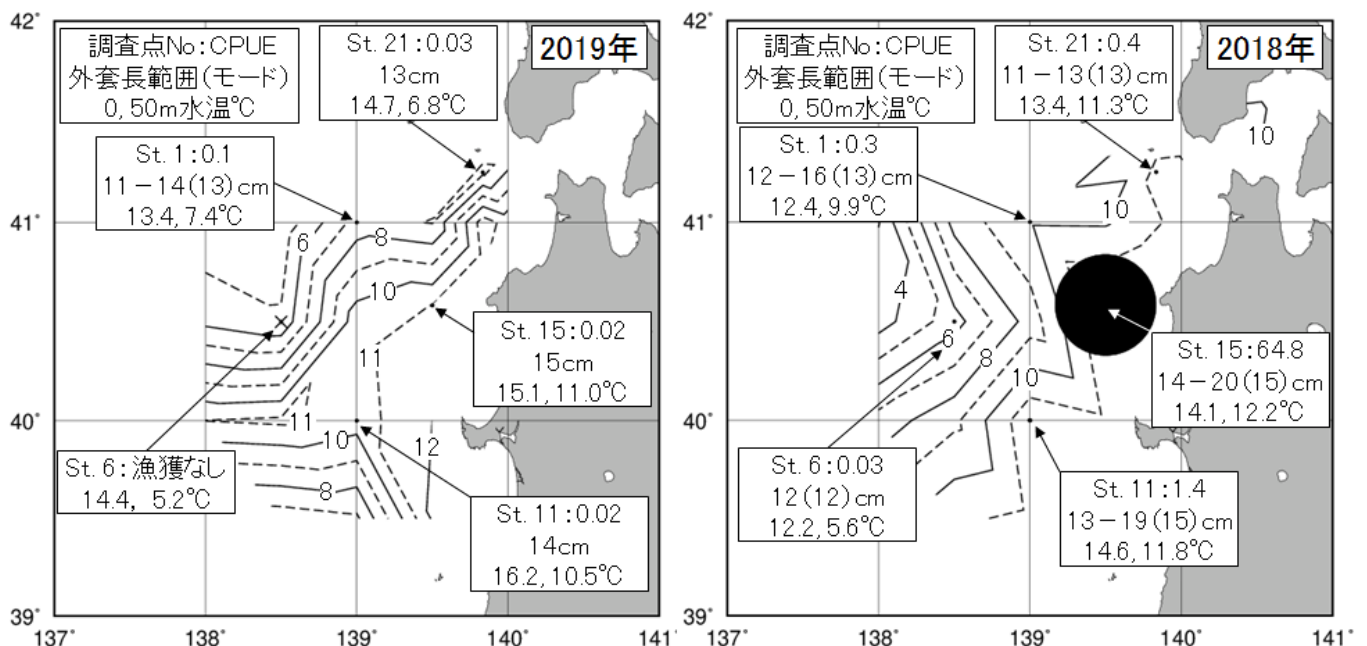


図1 スルメイカ漁獲調査結果（2018年との比較）。●は漁獲調査点で大きさはCPUEに比例（1以下は同じ大きさ）。×は漁獲なし。等温線は深度50mの水温。

2. 流向流速分布

航行中の ADCP 観測により得られた深度 50 m における航路上の流向流速を図 2 に示します。水温分布と照らし合わせると、対馬暖流は沿岸からの流れと、沖合からの流れが男鹿半島沖合で合流して、津軽海峡に向かって北東方向へ流れていると考えられました（図 2）。

道総研では北海道周辺海域で、2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらもご参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyousokuhou/>

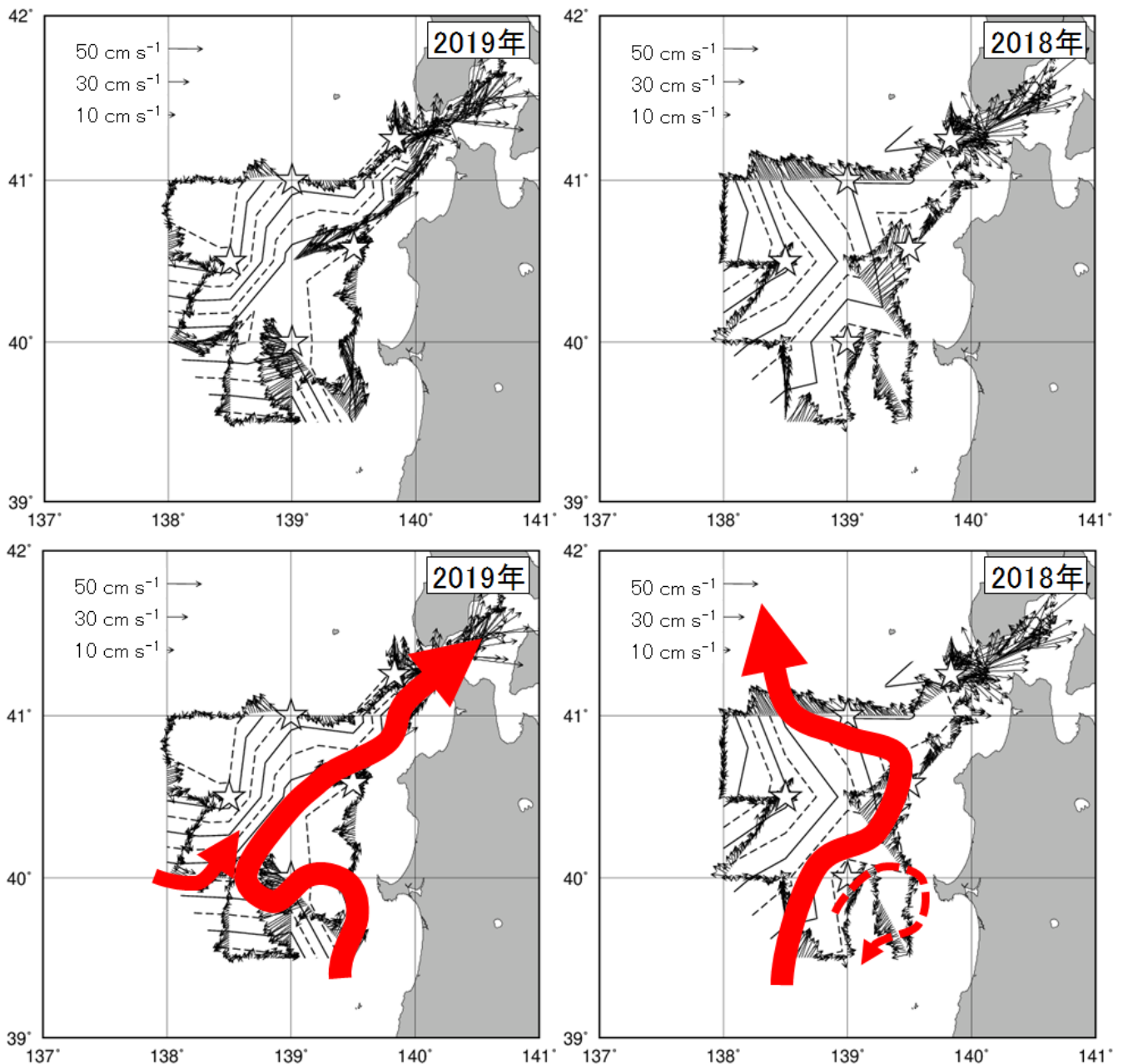


図 2 2019 年と 2018 年の深度 50m の水温と流向流速図（上段）と対馬暖流の模式図（下段）。等温線は深度 50 m の水温。☆は漁獲調査点。

3. スルメイカ分布密度 (図1、図3)

漁獲調査点 5 地点の CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たり漁獲尾数) は 0~0.1 (昨年 0.03~64.8) の範囲にありました。最も CPUE が高かったのは津軽海峡西方沖の St. 1 で CPUE は 0.1 (昨年は St. 15 で最も高く、CPUE は 64.8) でした。また沖合の St. 16 以外では、漁獲はあったものの、CPUE は低い結果 (0.02~0.03) となりました。

漁獲調査を行った 5 地点の平均 CPUE は 0.03 で昨年の 5 地点の平均 (13.4) 及び過去 5 年の平均 (6.7) を大きく下回り、2001 年以降では最も低い値でした。

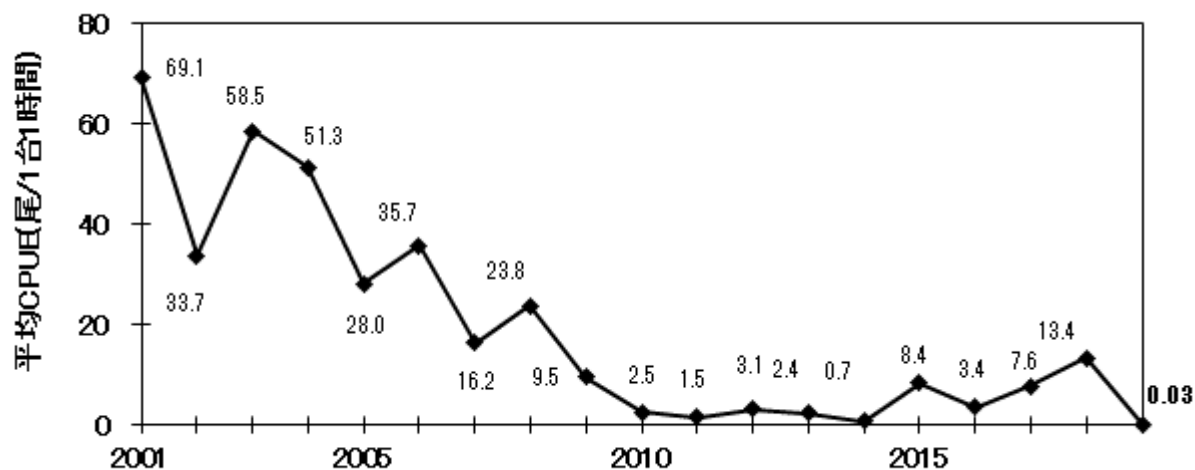


図3 松前以南 5 地点の平均 CPUE の経年変化(2001 年以降)。

4. スルメイカの大きさ (図4)

今回の調査で漁獲されたスルメイカの外套長の範囲は 11~15 cm (昨年 11~20 cm) でした。最も多く漁獲されたスルメイカの大きさ (モード) は昨年及び過去 5 年平均より小さい 13 cm でした。

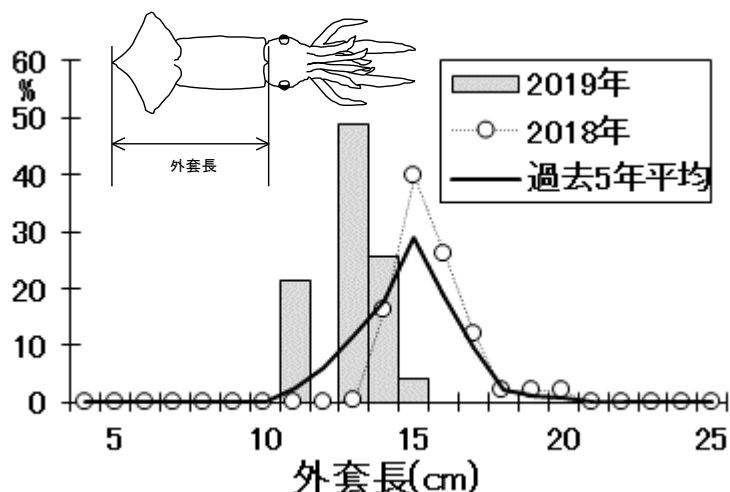


図4 調査海域全体の外套長組成。

(函館水産試験場調査研究部、TEL : 0138-83-2893、FAX : 0138-83-2849)